

国際電波戦争におけるジャミング — 冷戦期から現在まで

鳥居英晴

冷戦は言葉の戦いでもあった。第2次世界大戦の電波戦と同じように、冷戦でも短波放送は国際宣伝戦の有力な武器となった。米国や英国などは東側諸国向けの放送を強化していった。ソ連も対外放送を強化するとともに、膨大な資金を費やして西側放送に妨害電波（ジャミング）をかけて自国の国民にこれを聞かせないようにした。それでも西側放送は東側諸国の国民に浸透した。

国際情勢が緊張するとソ連はジャミングを強化し、緩和するとこれを一部停止するというパターンを繰り返した。ジャミングは国際情勢の緊張度をはかるバロメーターになった。ゴルバチョフはジャミングを停止し、まもなく冷戦は終結した。

冷戦後、インターネットの登場で各国は短波放送を縮小し、ロシアは完全に廃止した。しかし、中国は世界最大の規模の対外短波放送を維持する一方、最大のジャミング発射国になっている。

Jamming : The Electronic Iron Curtain in the Battle of the Airwaves from the Cold War Era to Today

Hideharu TORII

During the Cold War, the Soviet Union jammed the broadcasts of Western countries to prevent its citizens from listening to their programs. The intensity of jamming was a barometer of international tension. When an international crisis escalated, the Soviets increased jamming. When a tension eased, Moscow reduced jamming. The end of the Cold War came after Soviet leader Mikhail Gorbachev stopped jamming.

For its part, China, the world's largest shortwave broadcaster, has continued jamming of foreign broadcasts it deems hostile.